

疑問を見つけ、調べ、レポートにまとめる

－学年全体で取り組む歴博見学会－

千葉県立千葉女子高校 榎澤 和夫

1. 実施学年及び教科・領域

学 年 高等学校第1学年

領 域 総合的な学習の時間、日本史A・B

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 博物館見学の成果をレポートにまとめる

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』では、日本史A・Bの授業の一環として博物館学習を積極的に取り入れることを推奨している。特に「(3) 諸資料の活用について」において、「地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れることで、実物や複製品などの資料と接して知識・理解の一層の定着」が図れるとして、博物館学習の意義が説かれている。

また「日本史B」では、「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」が新たに設けられた。『解説』の「(6) 歴史を考察し表現する学習の導入・まとめの重視について」において、「歴史と資料」の項目の意味を「この学習を通じて、歴史資料から歴史的事象を読み取る技能、資料に基づいて歴史が叙述されることへの理解、歴史への関心、文化財保護の重要性にかかわる理解などを育てる」としている。

②単元の目標

(ア) 博物館の展示資料に対して興味や関心を持つ (関心・意欲・態度)

(イ) 博物館の展示資料から疑問を見つけ出し、仮説をつくる (思考・判断・表現)

(ウ) 仮説を実証するために、インターネットや文献資料などを活用する (資料活用の技能)

(エ) 調査したことをレポートにまとめる (知識・理解)

(3) 博物館との関連

①活用方法 来館型活用

②活用資料 主に第3展示室、第4展示室

(4) 指導観

千葉女子高校では、数年前から、7月中旬に総合的な学習の時間を利用して1学年の生徒全員を対象とした博物館見学を実施している。本校の1学年の地歴公民科の授業は、「地理A」と「現代社会」を行っているが、博物館見学は、2学年から始まる歴史学習の導入と位置づけて取り組んでいる。(2学年:「世界史B」、3学年:「日本史B」、共に

必修)。

3. 指導計画 (事前学習 1 時間、博物館見学 2 時間)

(1) 事前学習 (1 時間)

歴博の第 1 展示室の展示を使って、博物館展示の見方について解説した

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
展 開	60 分	<p>○「尖底深鉢型土器はどのようにして使ったのか？」を考える →地面に埋めて使った</p> <p>○「縄文と弥生の人々の身長の違いが生じたのはなぜか？」を考える →弥生の人々は大陸から渡来した</p> <p>○「木の先についているオブジェは何か？」を考える →鳥</p> <p>○「3本の銅矛(小→大)はどのような順番で並んでいるのか？」を考える →時代が進むにつれて大型になる</p>	<p>□展示を解説するだけでなく、「問い」を重視し、「なぜ…」「どうして…」と生徒に投げかける</p> <p>□なぜ地面に埋めて使用したことがわかるのか、その根拠を考えさせる</p> <p>■土器を観察することで、土器を地面に埋めて使用した根拠を発見することができたか<観察・ワークシート、関・技></p> <p>□身長差が生じた原因を考える視点を与える</p> <p>■身長差生じた理由が理解できたか<ワークシート、思・知></p> <p>□弥生時代の人々の信仰が、現在とつながっていることを意識させる</p> <p>■信仰が時代を越えてつながっているということを理解できたか<観察、思></p> <p>□銅矛が大型化した理由を考えさせる</p> <p>■武器としての矛が、祭器としての矛に変化する理由を理解できたか <観察・ワークシート、知></p> <p>■他の意見を聞くことで、自身の考えを深め、広げることができたか<観察、知></p>
ま と め	5 分	○見学会当日に使用するワークシート	□具体的な展示物を例に挙げてワークシートの記入方法について解説する

(2) 博物館見学 (2時間)

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
展開①	60分	○内田順子先生による講演を聴く 「音楽から見る沖縄の歴史と文化」	□2年次の沖縄修学旅行を念頭に置いて聴くように注意を促す ■問題意識を持って聴くことができたか (観察、関・思・知)
展開②	60分	○展示室を自由見学し、「変だなあ」「おかしいなあ」と思ったことをワークシートに記入する ○疑問に対する、自分の考え(仮説)を書く	□展示を漠然と見るのではなく、目的意識を持って見ることを強調する ■展示に対して疑問を持てみる事ができたか (ワークシート、関・技)

4. 実践の概要

(1) はじめに

展示されている「モノ」には展示する側の意図が示されており、「見学する」という場合は、解説を見学者が読んでその意図を読み解くか、または研究者の解説を聞いてその意図を理解するというのが一般的である。博物館見学を授業に置き換えた場合、そのような語りたいことを語る、教えたいことを教えるという授業方法では、生徒が主体的に歴史認識を形成していくということは難しい。教材である展示物を「問い」を探しながら見ることで、疑問に思ったこと、考えてみたいこと、知りたいことが明らかとなる。そして次に、自分なりの回答(仮説)を作らせる。最初は思いつきでも良いが、できるだけ多くの事実に基づき、論理的に自説が展開されるように指導する。その後、調査・検証する作業を行わせ、レポートにまとめさせた。

今回は2016年度に実施した歴博見学会をモデルにして、ワークシートを使った事前学習、当日の展示室見学、事後学習のあり方を提案したい。

(2) 指導計画

①事前学習

(ア) 日 時 2016年6月27日(月)6限目(総合的な学習の時間)

(イ) 内 容 パワーポイントを使って、展示物の見方を解説する【別紙1】。また、当日使用するワークシートの使い方について説明する。

②博物館学習

(ア) 来館日:2016年7月15日(金)10時~12時30分

学 年:1年生

人 数:約320人

(イ) 当日の日程

9:50 集合

10:00~10:50 講演「音楽から見る沖縄の歴史と文化」

講師 内田順子准教授

講演概要

- 1) 中国や日本，東南アジアとの交易で栄えた琉球王国
- 2) 外交とともに発展した琉球の音楽文化
- 3) 人びとの暮らしを伝える歌

11:00～11:45 Aグループ：第3展示室見学/Bグループ：第4展示室見学

11:45～12:30 Aグループ：第4展示室見学/Bグループ：第3展示室見学

(ウ) ワークシート【別紙2】を使った展示室見学

③事後学習

(ア) 日 時：2016年7月19日(火) 2限目(総合的学習の時間)

(イ) 内 容 1) ワークシートを整理し、取り組みたい課題をひとつ選ぶ

2) 夏休みを使ってレポートにまとめる【別紙3】

(3) 事前学習の概要

①縄文土器の展示

(ア) 展示の意図を考えさせる

博物館の展示はそれぞれが意図を持って展示されていることをまず生徒に気づかせたい。それに気づかせる典型的な展示が第1室の入り口にある縄文土器の展示である。

そこで、生徒に次のように問いかける。「これらの土器は全て縄文時代中期の土器ですが、適当に並んでいるわけではありません。どのような意図で並べられているのか考えてみましょう」

写真右側が北海道、左側が九州、手前が太平洋側、そして写真奥が日本海側である。この写真1枚で、列島全域にわたって土器が分布していることがわかると同時に、地域によって土器の形態に特色があることがわかる。

(イ) 土器の「謎」を見つける

次に、特徴的な土器をいくつかピックアップして「謎解き」を行う。右の写真は「尖底深鉢型土器」である。「何かおかしいことに気がつきませんか？」と生徒に問う。

「先が尖っているので地面に置いても安定しない。どのように使ったのか？」といった疑問が必ず出される。その疑問をそのまま生徒に問いかける。

「土の中に埋めて使った」という意見が必ず出てくる。これが正解だが、重要なのは、なぜそう考えたのかということである。そこで生徒にはそう考えた根拠を問いたい。

この尖底土器の場合、写真にその根拠が写っているので、写真をじっくり見るようにアドバイスする。金属のリングを境に、上には黒っぽいものが付着しているが、下は土器の茶色がそのまま残っている。このことからリングの上の黒っぽいものは煤で



あり、煮炊きした時に付着したと考えられる一方、リングの下は土中に埋まっていたため、煤が付かなかったと考えられるのである。

このような生徒とのやり取りを通じて、歴博の展示物から疑問を見つけ出し、その疑問を自分で解くことの面白さを体験させたい。

尖底深鉢型土器以外でも、様々な「謎」が生徒から出されるに違いない。例えば、右の「火焰土器」であるが、北陸や新潟、福島など特定の地域でしか見られない。「火焰土器」と地域的特性の関係を考える生徒も出てくるかも知れない。



また、その下の写真の土器も変わっている。良く観察すると、土器の淵にほぼ等間隔に穴があげられているのがわかる。「この土器は一体どのように使われたのだろう」という疑問も湧いてくるはずである。

- ・煮こぼれを防ぐために穴を開けた
- ・穴にひもを通してポシェットのように使った

火焰土器からはオコゲが付着していることから煮炊きに使われていたことも確かであるが、そうではない土器もあり、祭器などとして使用されたという説もある。また淵に穴の開いた土器はどのように使われたのか不明である。このように、展示物の中でもその用途が不明なものも多数あることにも注意を向けたい。



② 弥生の信仰の展示

(ア) 村の入り口にあるオブジェのなぞを考える

弥生の村の入り口にこのようなオブジェが置かれている。何に見えるのかを生徒に問いかける。

- ・ 鍬
- ・ 悪霊除け
- ・ 鳥に見える

このオブジェが「鳥」であることを確認し、なぜ「鳥」が村の入り口に置かれているのか、予想を立てさせる。

- ・ 鳥は鳴くので、村に悪霊が入ってくるのを知らせる役割があった
- ・ 鳥は空を飛ぶので、神様を乗せて村にやってくる役割があった
- ・ 鳥は高い木に止まるので、外敵が攻めてくるのを知らせる役割があった

(イ) 「鳥」と信仰の関係を考えさせる

「鳥」と信仰が関係あることを指摘し、鳥と日本人の信仰に関わることで知っていることを挙げさせる。

- ・ 神社にある鳥居
- ・ カラスと神様が関係があると聞いたことがある

日本サッカー協会のエンブレムが「八咫鳥」であることや、弥生時代から古墳時代



にかけて鳥型木製品や土製品が出土していることを指摘する。また、この鳥のオブジェが鳥居の原型であるという解釈があることも指摘した。

③青銅器の展示

(ア) 展示の意図を考えさせる

弥生時代の青銅器の展示は、銅矛、銅戈、銅劍、銅鐸とも大・中・小の3種類が展示されている。その展示の意図を読み取らせる。「銅矛が3種類展示されています。この3つを並べることにどのような意味を持たせているのでしょうか」

- ・銅矛は武器だから、小→大へとだんだん殺傷力が大きくなっていくことを示したのではないか
- ・大・中・小、それぞれ役割が違うのではないか
- ・時期によって大きさが違うのではないか

弥生時代前期（前4世紀）の銅矛は小さく、中期（前1世紀）から後期（2世紀）になるにつれ徐々に大型化していくことを示した展示である。

(イ) 大型の銅矛は何に使われたのだろうか

「なぜ時代が進むにつれて銅矛は大型化するのか」誰しもが次に思う疑問である。それを生徒に問いかける。

- ・殺傷力を大きくしたかったから
- ・大きすぎて武器にするには使いにくいと思う。他の役割があったのではないか

大型の銅矛は大分県坊主山遺跡から出土したものであるが、長さが6~70cm、重さは4~5kgあるだろうか（歴博展示には大きさ、重さの表示がない）。これではどう考えても武器には不向きである。では、何に使われたのであろうか…

ここで銅鐸の写真を見せて大型化の理由を考えさせる。馬などに付けるベルとして実用的であった小さい銅鐸が、大型化することでどのような役割をもつようになったのであろうか。

- ・権力者が権力の証明として使った
- ・宗教的な使われ方をしたのではないか

④ワークシートの作成

歴博展示から「疑問」を見つけ出し、その疑問について、「解釈」することの楽しさを事前学習で体験させた。最後に、見学会当日に活用するワークシート【別紙2】の作成方法について、第2展示室の「武士の館」を例に挙げて説明した。

写真の「武士の館」の左奥に「猿」がいることに着目し、それを疑問に取り上げる。

「武士の館にサルがいるのはなぜ？」



そして、その疑問について、自分なりの解釈（仮説）を考えさせる。

「サルの上に馬がいるので、馬と関係あるのではないか。武士にとって馬は大切なものだったので、サルは馬を守る力がある動物と考えられていたのかもしれない」



(4) 博物館学習の概要

①内田順子先生による講演

内田先生に「音楽から見る沖縄の歴史と文化」と題する講演をお願いした。歴博の沖縄に関する展示解説を織り込みながら、琉球音楽を入り口にして沖縄独自の歴史と文化についての約50分の講演であった。歴博見学会においては必ず歴博の研究者の講演を組入れている。その際、事前の打ち合わせを綿密に行い、生徒の問題関心に即した講演をお願いしている。

例えば去年は、「ドイツと日本を結ぶものー日独修好150年の歴史ー」の企画展示に合わせて久留島先生に講演をお願いした。これは本校のオーケストラ部が、毎年船橋市内で行われる第一次世界大戦ドイツ軍捕虜慰霊祭に参加し、また2年に1度ドイツ演奏旅行を実施していることに関わりのなかで企画したものである。

今回は2年次の沖縄修学旅行の事前学習の一環として講演をお願いした。本校では学年全体の1/3の生徒が音楽関係の部活動に加入していることもあって、沖縄と音楽の関わりを中心に話をしてもらった。

ワークシートを使った作業で生徒は、「三線と三味線の違いは何か」「三線にインド産にニシキヘビの皮が使われているのはなぜか」「『ミロク』はどのような役割を持っているのか」などについて疑問を見出しており、講演が生徒の問題意識を喚起したことがわかる。

②展示室見学

講演終了後、8クラスを4クラスの2グループに分けて、第3、第4展示室の見学を実施した。ワークシート【別紙2】を使って、2つ以上の疑問を見つけ、それぞれに自分なりの解釈（仮説）を書くように指示した。その際、展示を映像で記録するか、スケッチするように指示した。

③生徒が見つけた疑問と仮説

<第2展示室>

- ・仏像のポーズについて、なぜあのポーズか？
→相手を安心させるためのポーズだと思った

<第3展示室>

- ・子どもが誕生後、はじめて大人と同じ食事をする時になぜ儀礼をするのか？
→子どもの成長を祝うとともに、これからの成長を願うためだと思う

- ・なぜ屏風に描かれている雲は金色なのか
→金で描くと豪華な時代だと思われるから
- ・昔は、千葉県の北が下総、南が上総となっているのは何故？
→昔は京都に天皇がいたので、京都に近づくほど上る、遠ざかるほど下るとい
うから地名にも上と下がついたのだと思う
- ・なぜ義務教育でもないのに、わざわざ寺子屋に行って勉強したのか？
→前の時代よりも商店を営んだりする仕事が増えて、基礎知識などを身につけ
ておいた方が良かったからだと思う
- ・砂糖しめ白の模型で、なぜ牛で引いているのか
→牛は力があっていいから
- ・富山で薬品を作るのが盛んなのはなぜか
→薬を輸入した先が富山だったか、外国人が教えに来たのが富山だったと思う
- ・おかげ参りをしていた人々はなぜ興奮しているように見えるのか
→伊勢に行くことが珍しく、旅行を楽しんでいるように見える。道沿いの人々
が食料などを渡していて、それも嬉しかったと思う
- ・朝顔のブームはどのようなものだったかの、また形が変わったのはなぜか
→昔と今とではずいぶんと形が異なっていたので、様々な色・形を手軽に楽し
める観葉植物として流行していた
- ・民家の屋根に桶があるのは何でだろう
→雨水をためて生活用水として使っていたからだと思う
- ・「江戸図屏風」の中の雲の中に、家紋のようなものがある意味は？
→徳川家の家紋ではないため、他の人物を象徴するもの？仕えていた大名の家
紋とか？

< 第4展示室 >

- ・昔の人はどうして妖怪が好きなのか
→明かりの技術がまだ発展してなくて夜暗かったから、神や仏みたいに目に見
えないものを信じていたから
- ・なぜ注連縄には色々な種類があるのか
→日本には地域によって様々な風習があるので、それによっていろいろな種類
がある。
- ・ポテトチップスの袋が竹に刺さっていたのはなぜ
→豊作の願いが込められているのだと思う
- ・香川県の西部で男児が誕生した家には、なぜ馬の形をしたものが贈られるのか
→その地域の人たちにとって馬は特別な存在として扱われたり、馬に関する古
い言い伝えが残されているからだと思う

< 第5展示室 >

- ・全国水平社のマークは、どういう意味があるのか
→トゲトゲしているので刃物など攻撃をするものをイメージしていると思う

<第6展示室>

- ・戦時中の千人針はなんでトラの絵が入っている
→強そうだから

(5) 事後学習の概要

①ワークシートの整理

ワークシートを翌日に提出させ、コメントを付けて生徒に返却した。コメントをするにあたっては、レポートを作成するにあたっての調べ学習の視点を示した。316人が提出したが、展示室ごとの疑問数は以下の通りである。

第2展示室：19 第3展示室：339 第4展示室：221
第5展示室：8 第6展示室：15

②コメント例

(ア) 昔は、千葉県の北が下総、南が上総となっているのは何故？

→昔は京都に天皇がいたので、京都に近づくほど上る、遠ざかるほど下るというから地名にも上と下がついたのだと思う

《コメント》その通りです。しかし、下総（市川）と上総（市原）を比べた時に、京都に近い方は下総ですよ。近いのに「下」というのはなぜでしょうか？調べてください。

(イ) 「江戸図屏風」の中の雲の中に、家紋のようなものがある意味は？

→徳川家の家紋ではないため、他の人物を象徴するもの？仕えていた大名の家紋とか？

《コメント》鋭い指摘ですね。大名の家紋一覧で調べてみてください。また、「江戸図屏風」がどのような目的で作成されたのかも調べましょう。

③レポートの提出

レポートを夏休みの課題とし提出させた【別紙4】。ここでは、上記②で示したコメントに従って調べた生徒のレポートを紹介する。

(ア) 千葉県の北が下総、南が上総となっているのはなぜか？

現在天皇は東京にいるが、昔は京都にいたので、天皇の住む場所に近づくほど「上る」、天皇の住む場所から遠ざかるほど「下る」ということから、地名にも「上」と「下」がついた。だがその理論でいくと、「下総」の方が天皇が住む京都に近いので矛盾が生じる。ところが昔は、千葉から京都へ行くときは、下総側からではなく上総の方から海を渡って神奈川、そして京都に行くというようなルートだったため、「下総」より「上総」の方が、当時の天皇の住んでいた京都に近かったため。

(イ)「江戸図屏風」も雲の中の家紋のようなものの意味は？

2種類の家紋らしきものがある。単蝶と対蝶と呼ばれるもので、注文主に関わるものと考えられている。諸説あるが徳川家光の御成りの際に家光に見せるため、老中の松平信綱が作らせたものであると言われている。信綱は大河内久綱の子どもとして生まれたが、叔父の松平正綱の養子となった。その大河内氏と松平氏の家紋が気になって調べてみると、松平氏は「三本扇」を家紋としているが、大河内氏は「臥蝶」（3匹の蝶）を家紋としている。屏風にある単蝶と対蝶を合わせると3匹となり、大河内氏の「臥蝶」と重なる。このことから信綱が作成させたと考えられている。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ① 歴博展示の見方についての事前学習を行ったことで、目的意識を持って展示を見ることができた。結果として生徒は、歴博展示について多くの「問い」＝疑問を見つけることができた。
- ② 「問い」＝疑問に対して、生徒は自分なりの「仮説」＝見解を持つことができた。
- ③ 「仮説」＝見解を検証するために、調べ学習を行い、その成果をレポートとしてまとめることができた。
- ④ 研究者の講演を組み入れることで、生徒の問題意識がより高まった。

(2) 課題

- ① 単純な「問い」が多く、時代像を明らかにするような「問い」はほとんどなかった。
- ② 「問い」＝疑問を調べることによって、生徒の知識は深まったが、単なる調べ学習に終わったレポートが多かった。
- ③ 調べたこと、ネットに掲載されていることをそのまま書く生徒が多かった。調べたことによって何がわかったのか（調べたことを通じて生徒が今まで持っていた時代像がどのように変容したのか）をレポートにまとめて書かせるべきであった。
- ④ レポートコンクールのようなものを実施して、優れたレポートを紹介することで、レポートの作成方法について、生徒にフィードバックすべきであった。

【別紙 1】

「たのしい！？ 歴博見学会」 事前学習ワークシート

2016/6/27

Q 1. ^{せんていふかばち}尖底深鉢型土器はどのようにして煮炊きに使ったのだろう

A1. _____

なぜ、そう言えるのか _____

Q2. 縄文人と弥生人の女性の平均身長を比べてみると・・・

縄文人： _____ cm 弥生人： _____ cm

なぜ身長に違いがあるのだろう

A2. 弥生時代の人 _____

Q3. 木の棒の先についているオブジェは？ → A3. _____

Q4. このオブジェは、現在私たちがよく目にするものの原型です。それは何？

A4. _____

Q5. 3本の^{どうぼこ}銅矛が並んでいます。どのような順番で並んでいるのか予想してください。

A5. _____

Q6. _____の銅矛は何に使われたのだろう？

A6. _____

組 氏名 _____

【別紙2】

「たのしい!? 歴博見学会」ワークシート

Q1. 第3展示室（近世）、第4展示室（民俗）、その他の展示室で「変だなあ探し」をして下さい。「気になったもの」「何だコレ」と思ったもの、「なぜ〇〇〇になっているのか」と考えたものなど、2つ見つけて下さい。

（例） 武士の館にサルがいるのはなぜ？（第2展示室：中世）

〔 展示室 3・4・その他 （どれかに○印） 〕

①

〔 展示室 3・4・その他 （どれかに○印） 〕

②

Q2. 自分が見つけた疑問に対して、自分なりの考え（仮説）を書いて下さい。

（例） サルの近くに馬がいるので、馬と関係あるのではないか。武士にとって馬は大切なものだったので、サルは馬を守る力がある動物と考えられていたのかもしれない。

〔 展示室 3・4・その他 （どれかに○印） 〕

①

〔 展示室 3・4・その他 （どれかに○印） 〕

②

組 番 名前

* 7月19日（火）に提出

【別紙 3】

「たのしい！？ 歴博見学会」レポート

Q1. 歴博の展示の中で、変だなあ？と疑問に思ったことをひとつ書いてください。またその展示の写真を添付するか、展示のスケッチをしてください。

第_____展示室

【写真添付 OR スケッチ】

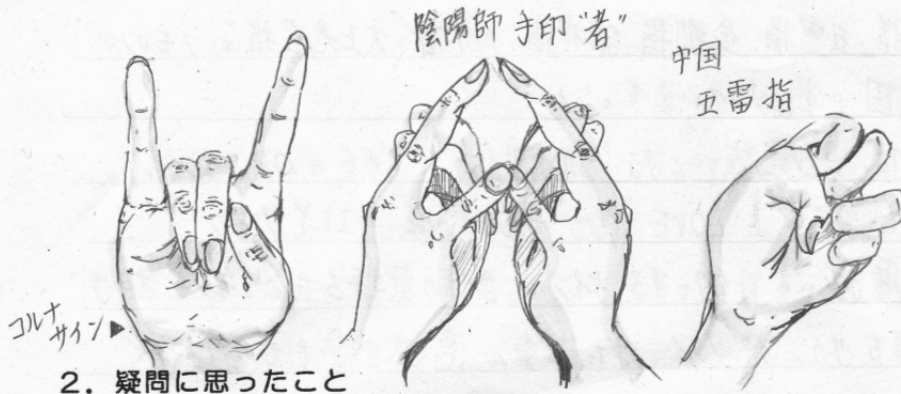
Q2. その疑問について調べたことを書いてください(裏面を使用しても良い)。

組 番 名前

* 9月1日(木)に提出

「たのしい!? 医博見学会」レポート

1. 写真添付 OR スケッチ [第 4 展示室]



2. 疑問に思ったこと

なぜ手や指を使った魔除けやおまじないが”沢山”できたのか。

3. 調べたこと (何を調べて調べたのか、文献名やネットのサイト名なども書いてください。裏面も使用してください)

魔除けやおまじないの類は、平安時代の陰陽道を基として出来たといわれており、
日本では、身分に関係なく、人々の生活に関係ある身近なものが多い傾向にあります。
また、昔の日本のお札ないなどの傾向は、悪いことがおこらないように「んてはい
けない」という禁止タイプが多いのですが、現在では「良いことAおこるように」や
願いにも叶える」といったタイプが増えているという傾向にあり、時代の情勢によって
変化しています。では、なぜ手や指を使うものが出来たのでしょうか。そもそも魔除けや
おまじないは、前述のように陰陽道を基にしているため、陰陽師などの術師のみが扱え
る難しい代物であり、祈禱は身分の高い者しか授かることは出来ませんでした。
そこで庶民達は陰陽師などが祈禱中に行う手や指の形も模範とし、簡単に
誰でも扱えるようにしたり、絵巻物に描かれている魔除けの絵の中にあるポーズ”
を参考に庶民でもできるように作成し、それが伝来したといわれています。
例えば、仏像、観音像の手の形にある「コルナサイン」というものが世界中で使われている
もの一つであります。

E組 8番 名前 金田 望来

*9月1日(木)に提出

→裏面に続く

【別紙 4 ② 裏】

また、陰陽道で使われる「手印」である「^ル臨^ウ兵^ウ闘^カ者^カ皆^カ陳^カ裂^カ在^カ前^カ也^カ」
よく使われる魔除けの手法であり、指を複雑に絡み合わせ、形を作り、唱えます。
中国では、「キョウシー」を祓うために陽陽道の手印に類似した、
「道指、三溝指、五雷指、金剛指、請神指、八卦指、太上老君指」のようなものがあり、アジア諸国で類似しています。

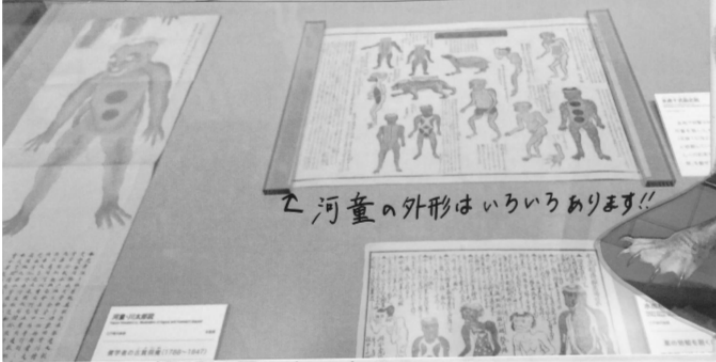
ヨーロッパでは、悪魔祓いと称する「コルナサイン」、「666のOKサイン」、
「あなたを愛しています」→「I LOVE YOU」からとって「ILYサイン」
などの「悪魔祓いと称するサインと自分の気持ちをこっそりと相手に伝えようとするサインがたく、また、二重の意味を含むものも多くあります。また、それがお祓いと称する意味と対象物を信仰する意味があり、そのため人前で使うと勘違いや誤解を生むことがあります。

このように、手や指を使った魔除けやまじないというものは、世界中に古くから伝来され、使われており、時代の流れによって、情勢に変化を合わせながら現代まで受け継がれているものだということか調べてわかりました。

※注意書き※
魔除け、まじないをふざけ半分で使用したりしないで下さい。
危険な行為につながるようなことをしないようにして下さい。
お願いします。

「たのしい!? 匠博見学会」レポート

1. 写真添付 OR スケッチ [第 4 展示室]



河童の外形はいろいろあります!!

日本の妖怪で、川や沼、海にいる。
僕は龍と同じで水神といわれている。
をして、キョウリは初子の野菜として水神
信仰の供え物に欠かせなくて、僕の好物
に由来するといわれている!!
知ってた!!?



2. 疑問に思ったこと

なぜ、河童は胡瓜と相撲が好きなのか、なぜ河童は鹿の角や唾、金物が嫌いなのか。

3. 調べたこと (何を使って調べたのか、文献名やネットのサイト名なども書いてください。裏面も使用してください)

〈河童の伝説〉

河童は子供ほどの背丈に短くちほし、背中には魚のような甲羅で、手には水かきがついている。頭には血玉をせているものが多く、皮膚はウロコをもつものや毛でおおわれているものもいる。力が強く、その力は大人よりも強いが、必前に供えられた飯を食べた後では子供でも負けないといわれている。胡瓜を好み、いたすらのおわびとして河童が薬の製法を伝授し、その薬は効果抜群である。河童の指は3本であり、これは五体満足でなく、生まれた子供の意味である。食の扶持を減らすために、子供が間引きされ、河童として神の元へ返すという風習があった。水かきのある手は、救い上げた人々がこぼれ落ちないように水かきを持っていた、お釈迦さまと同じ神的存在になったことを示す。「せめて神の元では長生きをしてほしい」という願いから、長寿を表す魚の甲羅を背負うのである。よって河童は子供の成長を願う神となった。河童には地域によって呼称が異なり、「河童」とは東日本を中心にしていた呼び方である。他にもカワウソ、カメ、エンコウ、ガウソ、ほと河童の呼称は、80を越える。各地に河童の伝承がある。(出典: Wikipedia, 黄桜のほろろ、志木とカッパ 離=ユース)

E組 39番 名前 小田 姫加
*9月1日(木)に提出



河童が相撲を好むのは、元々相撲が水神に奉げ
る行事だ、だから伝えられる。
河童に相撲で勝つ必勝法!
・仏前に供えた飯を食べた後、開く。
・相撲と取っ組み合いでお供儀をする
↳ 幼少期と河童とお供儀を返し、それによって頭の皿の
水がこぼれて、力が出せなくなる!

相撲が得意なのは、
類人猿形態!

亀人形態

体がウロコで覆われていて、くちしがある。
顔には皿、お供儀を死んでしまう、もしくは力が衰弱
背中に甲羅、手足に水かき、手の親指がない

汐の葉で頭をなでると
人間に化けることができる!



類人猿形態

全身が毛で覆われている。口には牙が
あり、鼻の造りかたは、きりしない。
頭部にくちしがあり、そこには常に水
を溜めており、乾くと死んでしまうか、
衰弱する。手には親指があり、足には
かかとがある
相撲が得意で、人間に勝つ

河童を題材とした作品

- 文学
- ・芥川龍之介 「河童」
 - ・草野心平 「河童と蛙」
- 漫画
- ・水木しげる 「河童の三平」
 - ・清水寛 「かっぱ天国」
↓
黄桜のCMキラーの
原案
 - ・石川優吾 「かっぱの飼いかた」

河童で有名な地名

- ・岩手県遠野市
カッパ淵
- ・東京都台東区
合羽橋

河童にまつわる言葉

- ・河童の川流れ → 得意なことを失敗することから起るといえる。
- ・河童の木登り → 新卒者、不得意なことを指す。
- ・尻の河童 → 取るに足りないこと。
- ・陸へ上がった河童 → 環境が一変すると、たくましく生き残ることに

芥川龍之介の「河童」は
映画化もされている

忌日7月24日
「河童忌」